

第2回 IEEJ/APERC 国際エネルギーシンポジウム 開催のご案内

—不透明な国際エネルギー情勢における脅威と機会—

平素より大変お世話になっております。

米国トランプ政権の誕生や Brexit に揺れる欧州、更に混沌を深める中東情勢など、これまでの世界秩序を揺るがすような大変革がもたらされつつあります。世界のエネルギー情勢を巡っても、様々な変革がもたらされており、その不透明性は一層高まっています。

そこで、弊所は、附置機関のアジア太平洋エネルギー研究センター(APERC)と合同で、昨年引き続き、国際シンポジウムを共催し、これらの大変革が世界のエネルギー情勢にどのような影響をもたらしうるのか、その脅威と機会、インプリケーションを議論します。

本シンポジウムでは、3つのセッション、①「米国トランプ政権とエネルギー・環境政策への影響」、②「気候変動とゼロエミッション・エネルギー（原子力・再生可能エネルギー）の将来」、③「安全保障・経済性の確保と石炭を含む化石燃料の役割」、を設け、世界の著名なエネルギー専門家（弊所の特別客員研究員及びアジア太平洋地域の官民オピニオンリーダー）を招聘し、弊所の研究者とともに、講演とパネルディスカッションを行い、参加者の皆様を交えた質疑応答を予定しております（日英同時通訳付き）。皆様のご参加をお待ちしております。

記

1. 日時：平成29年5月18日（木）9：30～17：40（受付9：00～）
2. 場所：グランドプリンスホテル高輪 B1F「プリンスルーム」
〒108-8612 東京都港区高輪 3-13-1 TEL: 03-3447-1111
http://www.princehotels.co.jp/takanawa/contents/access_map/
3. テーマ：「不透明な国際エネルギー情勢における脅威と機会」
4. 内容：プログラムは次ページ以降
※ 使用言語：日本語／英語（同時通訳付き）
5. 参加費：無料（昼食を含みます）**事前登録制**
6. 申込方法： 下記 URL より、ご登録をお願い致します。
<http://eneken.ieej.or.jp/seminar/event_login.php>
締切：平成29年5月15日（月）

※ 定員を超えた場合は締切り前でも募集を打ち切らせていただくことがありますので、ご理解のほど、宜しくお願い致します。

※ プログラムは変更となる可能性がございます。変更があった場合はホームページ上でご案内致しますので、ご確認のほど、宜しくお願い致します。

お問合せ先：一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 企画事業ユニット総合企画グループ
TEL：03-5547-0211 FAX：03-5547-0223

プログラム

9:00-9:30	受付	
9:30-9:40	開会 挨拶	(一財)日本エネルギー経済研究所 理事長 豊田 正和 Mr. Masakazu Toyoda, Chairman and CEO, IEEJ
9:40-11:40	セッションⅠ 『米国新政権とエネルギー・環境政策への影響』 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 米国トランプ政権誕生による世界の地政学への影響はプラスかマイナスか？ 中東は不安定化するのか？ ➢ トランプ政権のエネルギー政策は化石燃料偏重となるのか？ ➢ トランプ政権下で、地球温暖化政策は停滞するのか、現実的になるのか？ ➢ その他、何が脅威で、なにが機会となるのか？ 	
	司会	フィナンシャル・タイムズ 東京支局長 ロビン・ハーディング氏 Mr. Robin Harding, Tokyo Bureau Chief, Financial Times
	パネリスト	米 ライス大学パーカー研究所 シニアダイレクター ケン・メドロック氏 ^{*1} Dr. Kenneth Medlock, Senior Director, Baker Institute for Public Policy, Rice University, US
		米 コロラド大学 環境学部教授/スポーツガバナンスセンター所長 ロジャー・ピールキ氏 ^{*1} Dr. Roger Pielke, Professor, Environmental Studies Prog. / Director, Sport Governance Center, Univ. of Colorado
		米 戦略国際問題研究所 エネルギー・地政学議長 アダム・シミンスキー氏 Mr. Adam Sieminski, James R. Schlesinger Chair for Energy and Geopolitics, CSIS, US
		英 王立国際問題研究所 特別上席フェロー ポール・スティーブンス氏 ^{*1} Dr. Paul Stevens, Distinguished Fellow, Chatham House(RIIA), UK
		(公財)笹川平和財団 会長 田中 伸男氏 ^{*1, *2} Mr. Nobuo Tanaka, Chairman, Sasakawa Peace Foundation
(9:40-10:40)	講演	
(10:40-11:40)	パネルディスカッション	
11:40-13:00	昼食	
13:00-15:00	セッションⅡ 『気候変動とゼロエミッション・エネルギー（原子力・再エネ）の将来』 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 気候変動への取り組みが本格化する中で、今後の原子力と再エネの役割は何か？ ➢ 原子力は本当に安全なのか？ 原子力への国民の不安は払しょくできるのか？ ➢ 再エネは本当に安くなったのか？ 再エネの導入可能性は地域や国によって異なるのか？ ➢ 自由化は、政府の支援が無ければ、原子力や再エネの維持・増加を困難にするのか？ ➢ その他、原子力や再エネの何が脅威で、何が機会となるのか？ 	
	司会	ウォールストリートジャーナル 東京支局 記者 根岸 真由美氏 Ms. Mayumi Negishi, Reporter, Tokyo Office, The Wall Street Journal
	パネリスト	米 元エネルギー省次官補（原子力担当） ピーター・ライオンズ氏 ^{*1} Dr. Peter, Lyons, Former Assistant Secretary for Nuclear Energy, Department of Energy, US
		英 インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授 ジェリー・トーマス氏 ^{*1} Dr. Gerry Thomas, Professor, Imperial College London, UK
		蘭 シェル・インターナショナル 首席エネルギーアドバイザー ウィム・トーマス氏 ^{*1} Mr. Wim Thomas, Chief Energy Advisor, Shell International, Netherlands
		(公財)地球環境産業技術研究機構 参与 山口 光恒氏 ^{*1, *2} Mr. Mitsutsune Yamaguchi, Special Advisor, RITE
		米 ローレンス・バークレー国立研究所 中国エネルギーグループ グループリーダー ナン・チョウ氏 Dr. Nan Zhou, Group Leader, China Energy Group, Lawrence Berkeley National Laboratory, US
(13:00-14:00)	講演	
(14:00-15:00)	パネルディスカッション	
15:00-15:20	休憩	

15:20-17:35	セッションⅢ 『安全保障・経済性の確保と化石燃料の役割』	
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 気候変動問題への対応を迫られる中で、本当に化石燃料は座礁資産となるのか？ ➢ エネルギー安全保障や経済性の観点から石炭・ガス等の化石燃料はどのような役割を果たすのか？ ➢ 経済成長と気候変動対策は本当に両立しうるのか？ 3E のどれかを諦めなければならないのか？ ➢ 化石燃料との関係で、カーボンプライシングをどう評価するか？ ➢ その他、化石燃料とりわけ石炭の脅威と機会は何か？ 	
	司会	日本放送協会 報道局経済部副部長 飯田 香織氏
	パ ネ リ ス ト	(一財)日本エネルギー経済研究所 常務理事 首席研究員 小山 堅 ^{※2}
		豪 環境エネルギー省 資源エネルギー経済部 次官補 ロス・ランビー氏
		クライメイト・グループ 会長 ジョアン・マクノートン氏 ^{※1}
		露 スコルコボ・ビジネススクール エネルギーセ ンター所長 タチアナ・ミトロバ氏 ^{※1}
		シティリサーチ ディレクター兼グローバル・エネ ルギー・ストラテジスト アンソニー・ユエン氏
		英 オックスフォード・エネルギー研究所 ガス・ プログラム議長 ジョナサン・スターン氏 ^{※1}
(15:20-16:35)	講演	
(16:35-17:35)	パネルディスカッション	
17:35-17:40	閉会 挨拶	アジア太平洋エネルギー研究センター 所長 大慈弥 隆人
		Mr. Takato Ojimi , President, APERC

※1 当研究所の特別客員研究員

※2 各セッションのパネルディスカッションのみに参加